

農作物鳥獣害対策ネットワーク東海の設立の目的

鳥獣害対策の問題点と課題

問題点

- ① 中大型哺乳類(イノシシ、サル、シカ等)による農作物被害
 - ・中山間地域等で被害が拡大しており、経済的損害ばかりでなく、耕作放棄地や離農の一因。
- ② 外来動物(ヌートリア、ハクビシン、アライグマ等)による農作物被害
 - ・被害地域が拡大しており、生態の解明や防除技術の研究はこれからの状況。
- ③ 鳥類(カラス、スズメ、ムクドリ等)による農作物被害
 - ・被害が広く薄くで、飛べること、環境への適応能力の高さから、効果的防除技術の開発が困難。

各地域で対策に取り組んでいるものの被害が減らない

鳥獣害対策に取り組んでいる農家や市町村担当等の悩み

- ・効果的な対策はないだろうか
- ・どんな助成措置があるのだろうか
- ・野生動物の生態がわからない
- ...

情報が欲しい

誰に相談すればよいのか

課題

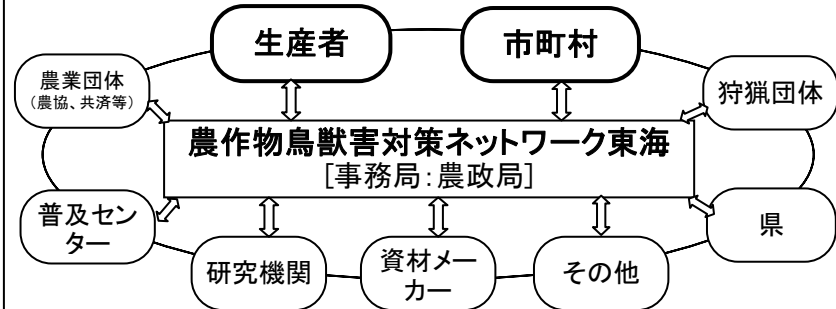
情報の交流や問い合わせ・相談を円滑にする仕組みが求められている

ネットワーク東海の設立

目的

鳥獣害対策関係者・関係機関等会員によるネットワークを通じて、東海地域で農作物の鳥獣害対策に自ら取り組んでいる者又は取り組もうとしている者の取組を支援する。

活動のイメージ図



情報の交流の促進

- ① 会員への情報の発信。
事務局のWebサイトやメールマガジン等
- ② ①や会員独自による情報発信を手がかりとした会員間での交流。

連携の促進

- ① 会員からの問い合わせや相談先について、事務局が窓口・パイプ役となって円滑な対応を図る。また、これらの対応で得られたものを必要に応じて、他の会員にフィードバックする。
- ② 会員の独自の取組、連携等の状況を事務局で把握、紹介し、地域における協議会等の連携体制を促進する。
- ③ 事務局の啓発用パンフレット等の作成、配布等。